

# 診療情報管理士育成のためのカリキュラム改定に関する 一考察

## A study on revising a curriculum for Health Information Manager's educational program

春木和仁・周藤俊治・星 雅丈

### 要旨

近年、社会の高齢化や医療技術の進歩による医療費増大、それに伴う国民自己負担率の増加、地方における医師不足や診療科目の偏りが大きな社会問題となっている。また、医療過誤・診療ミスなどによる医療訴訟なども増加している。このような社会環境の変化への対応策として、診療行為において発生した情報（以下、診療情報とする）を正確に効率よく、質を担保した状態で管理して、医療の質向上に寄与させる必要がある。その一翼を担う診療情報の専門家として、診療情報管理士の育成が現在の医療界では望まれている。

本学は、医療福祉マネジメント学科を平成 19 年度に開設し、平成 20 年に「診療情報管理士」受験資格の養成認定校として日本病院会から認定された。現在、開設時に設定した学科カリキュラムにより「診療情報管理士」の育成を実施している。来年度で 4 年間で経過することになり、平成 23 年度入学者に向けた学科カリキュラムの改定を検討しており、その中で「診療情報管理士」に関連する科目に関しても、それらの年次配当などをこれまでの成果を基にして見直している。

本稿では、「診療情報管理士」資格取得に関連するカリキュラム改定に関して、目的や手法、プロセス、そして、その結果である新しいカリキュラム案について報告する。

キーワード: 診療情報管理士, カリキュラム, 医療福祉

Keywords: Health Information Manager, Curriculum, Medical and Welfare

### 1. はじめに

本学は、近畿北部の地域社会へ貢献できる人材を育成する目的で、経営情報学部の単科大学として平成 12 年に設立された。地域社会の活動を、農業、工業、商業だけで分類できる時代ではないが、

本学の学問領域は、商業の範疇となる「経営学」である。〇〇商科大学、□□農業高校などのように、農業、工業、商業などの専門性を校名としている大学・高校もあるが、本学は、校名では分野を限定してはいない。高校では、大学へ進学するために必要な基礎科目を中心とした普通科が多くなり、大学では、学部、学科を専門性で細分化する傾向にあるなど、少子化による学校間の競争激化に対応して学部・学科の名称も変化している。例えば、専門学校が提供していた実務的な専門性を大学が積極的に取り入れるなど、大学の専門学校化とも言えることが起きている。また、大規模な大学は、学部で高校のように基礎教育を行い、大学院で高度な専門性（法科大学院、MBA など）を深めることができるように教育体制を変更してきている。最近、大学入学者の学力低下により、高校教育の継続で国語・英語・数学などの基本科目を再教育する必要性が出てきているが、その根本的な対応として小中学校から大学までの一貫教育を目指している大学もある。

このような教育の多様化が進む中、地方の大学は絶えず変化しなくてはならない状態にある。地域社会を持続させる専門性を持った人材を輩出するために、地域貢献に掲げる専門領域を明確にし、教育できる組織体制を構築することが、地方大学に求められている。大規模な大学であれば、農業、工業、商業の大雑把な専門性による学部、そしてそれを細分化した多くの学科で構成できる。しかし、小規模な大学では、学生数が少ないことから地方社会が希求する専門性の学科に限定しないと経営的に成り立たない。本学では、地域貢献の観点から即戦力になる専門性に特化した教育を実践することが最良であると、筆者らは考えている。

多くの企業は、利益拡大のために全国的な展開を、さらに海外進出による国際化を目指している。その販売などの活動はもちろんであるが、その製造の活動拠点も特定の国内地域には限定していない。そのため、地方自治体は、どこも企業誘致を行い、税収入の増加を目論んでいるが、最近では、不景気による企業撤退が税収入の減少をもたらし、これまでの無理な企業誘致合戦が地域経済を破壊する結果となっている。優秀な人材を地域において継続して雇用するには、医療・教育などの社会基盤が充実していることが必要である。企業誘致が出来ない、また撤退するのは、高速道路や新幹線などの物理的なインフラの未整備だけを原因として国レベルの問題にすり替え、地域で実践すべきことを行っていないことが要因にあるものと考えられる。工業製品はどこで生産してもよいが、生活している人へのサービスは地域が主体となる。その地域で育てなくてはならない人材の専門性は、生活に密着した分野である介護、福祉、医療、教育などであると考えられる。

近年、社会の高齢化や医療技術の進歩による医療費増大、それに伴う国民自己負担率の増加、地方における医師不足や診療科目の偏りが大きな社会問題となっている。また、医療過誤・診療ミスなどによる医療訴訟なども増加している。医療問題は政治・経済・社会の基本となる社会保障の問題であり、国レベル、都道府県レベル、そして市町村レベルで、総合的かつ整合性のとれた解決策を検討しなくてはならない。決して1つの解決策があるわけではない。しかし、解決のために進むべき一つの

方向は、診療情報を社会の重要な資産として再認識し、正確かつ効率的に管理することである。診療情報管理の主たる目的は医療の質向上であるが、その社会的な価値も非常に大きい。地域の医療機関から診療情報を集約し分析することによって、地域医療の現状を把握することができ、その現状把握により、進むべき方向、実施すべき政策を見出すことができる。

診療情報の適切な管理には、各地域における「診療情報管理士」の育成が不可欠である。資格「診療情報管理士」は、社団法人 日本病院会が病院に勤務する病歴管理の事務職を対象として昭和 47 年より実施した通信教育から始まった。現在は日本病院会を含む四病院団体協議会（社団法人 全日本病院協会・社団法人 日本医療法人協会・社団法人 日本精神科病院協会）、及び財団法人 医療研修推進財団が資格認定機関となっており、医療界において非常に認知度の高い専門資格となった。平成 21 年 5 月現在、資格取得者は全国で 19,767 名（資格「診療録管理士」からの資格移行試験合格者 1015 名含）<sup>(1)</sup>であり、病院ではその存在が診療報酬制度上の加算対象として認められている。特に大規模な大学病院などでは、その職務が確立されている。本学では、その育成を第一の目的として、経営情報学部医療福祉マネジメント学科を平成 19 年に新設した。

本学は、平成 20 年に日本病院会より「診療情報管理士」養成校として認定された。これにより医療福祉マネジメント学科の「診療情報管理士」育成のカリキュラムを終了した学生には、受験資格が与えられる。認定校と認められたのは、開設から 2 年間に亘って実施してきた教育組織・体制が評価されたと考えている。第一期生が来年度に卒業することになり、資格「診療情報管理士」の取得に向けた 4 年間のカリキュラムは一巡する。今後の合格率を向上させるためには、いくつかの問題点があることが分かかってきており、現在、「診療情報管理士」育成カリキュラムの見直し、医療福祉マネジメント学科の科目配置表（表 1）の再構成を検討している。そのカリキュラム改定の目的・手法・プロセスなどを本稿で紹介する。

## 2. カリキュラム構成と問題点

### 2.1 基本的なカリキュラム構成

医療福祉マネジメント学科では、医療と福祉の 2 つの専門性を習得した人材を育てることが想定されていたため、表 1「科目配置表」に示すように、卒業に必要な単位数 124 を満たす科目数の倍に近くなる科目をカリキュラムに用意した。ダブルメジャー、もしくはメジャーとマイナーとして、2 専攻のテーマへの展開も視野に入れたカリキュラムである。資格「診療情報管理士」の受験に必要な科目<sup>(2,3,4,5)</sup>を、日本病院会の指定科目名との対応関係を含めて、「科目対応表」として表 2 に示す。

医療分野では、この他に資格「医療情報技師」の取得も目指すことができる。「医療情報技師」は医療における情報システムの専門家であり、病院内の情報システムの企画・導入・運用管理から、地域における医療情報の施設間連携システム・遠隔医療支援システムに至るまで、医療情報を扱う全

表1 科目配置表 ※:経営情報学部・医療福祉マネジメント学科の必須科目

科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次		
ナミセ	基礎ゼミⅠ [2]※	基礎ゼミⅡ [1]※ 専門ゼミⅠ [2]	基礎ゼミⅢ [1]※ 専門ゼミⅡ [4]	基礎ゼミⅣ [1]※ 専門ゼミⅢ [4]		
ベーシックス	外国語科目	英語Ⅰ [2]※ 英語Ⅱ [2]※ 中国語Ⅰ [1] 中国語Ⅱ [1] 韓国語Ⅰ [1] 韓国語Ⅱ [1]	英語Ⅲ [1] 英語Ⅳ [1] 中国語Ⅲ [1] 中国語Ⅳ [1] 韓国語Ⅲ [1] 韓国語Ⅳ [1]	英語Ⅴ [1] 英語Ⅵ [1] TOEICⅠ [1] TOEICⅡ [1]		
		人文科学	歴史と地理 [2] 倫理と哲学 [2] 異文化理解 [2] 文学概論 [2]			
			社会科学	経済学概論 [2] 法学 [2]※ 地方行政 [2] 福祉概論 [2]※		
		自然科学		一般数学 [2] 身体運動の科学 [2] 解剖生理学 [2]※ 心理学 [2]※		
			総合	現代日本語 [2] スポーツと体力づくり [2] プレゼンテーション論 [2] 北近畿学 [2]		
	ICT	コンピュータ入門 [2] コンピュータリテラシー[2]※ 情報処理概論 [2] 現代社会と情報技術 [2]				
	共通基礎科目Ⅰ	企業と経営 [2] 経営学入門 [2]※ 現代経済論 [2] 簿記論 [2]※ 会計学入門 [2] ビジネス実務 [2] ホスピタリティー論 [2]※ サービスマネジメント論[2] データベース論Ⅰ [2] プログラム設計論 [2]	経営管理論 [2] マーケティング論 [2] 企業論 [2] 会計情報演習 [2] ビジネス・コンピューティングⅠ [1] ビジネス・コンピューティングⅡ [1] 情報数学 [2] 経営情報論 [2]※ 経営情報システム [2] 経営情報特殊講義Ⅰ [2] 経営情報特殊講義Ⅱ [2] マルチメディア論Ⅰ [2] マルチメディア論Ⅱ [2] データベース論Ⅱ [2] システム開発論 [2] システム運用 [2] ヒューマンインターフェイス [2] 情報ネットワーク論Ⅰ [2] 情報ネットワーク論Ⅱ [2] Webシステム [2]	ネットワーク・コラボレーション [2] 情報管理論 [2]		
		共通基礎科目Ⅱ	医学一般 [2]	対人関係論 [2] 社会福祉原論 [2] 非営利組織会計論 [2] 医療福祉政策論 [2] 医療経営学入門 [2] 医療事務総論 [2] 医療管理論Ⅰ [2] 医療管理論Ⅱ [2] 画像処理 [2] 臨床医学A [2] 臨床医学B [2]	医療福祉法制・行政論 [2] 社会保障論 [2] 地域福祉論 [2] 臨床医学C [2] 臨床医学D [2] 臨床医学E [2]	
	スペシャリティ	専門領域(福祉経営)	介護概論 [2]	経営分析論 [2] 精神保健論 [2] 精神保健福祉論 [2] 児童福祉論 [2]	コストマネジメント論 [2] リスクマネジメント [2] 医療福祉マーケティング [2] 老人福祉論 [2] 障害者福祉論 [2] ケアマネジメント論 [2] 臨床栄養学総論 [2] 診療報酬事務演習 [2]	
		専門領域(医療情報)	医療・診療情報管理論 [2]	診療情報分類法演習 [2] 医療情報学 [2] 医療統計学 [2] 診療情報分類法総論 [2] 医療情報システム論 [2]	医療統計演習 [2] 医療情報システム設計・運用論 [2] 統合化医療情報システム論 [2] 疫学概論 [2]	
学外実習科目	体験ワーク [2]	国内フィールドワーク [4] 国際フィールドワーク(中国) [4] 国際フィールドワーク(韓国) [4] 国際フィールドワーク(英語圏) [4]	ビジネス・インターンシップ [4]	医療・診療情報管理実習 [4]		
特別講座		病歴記録管理士対策講座 [1] 医療管理秘書士対策講座 [1] 保健医療ソーシャルワーカー対策講座 [1] 診療情報管理士対策講座 [1] 医療情報技師対策講座 [1]				

表2 「診療情報管理士」科目対応表

指定科目	本学対応科目
<b>【基礎科目】</b>	
医療概論 医学用語	医学一般
人体構造・機能論	解剖生理学
臨床医学総論	医学一般
臨床医学各論Ⅰ 臨床医学各論Ⅱ	臨床医学A
臨床医学各論Ⅲ 臨床医学各論Ⅳ	臨床医学B
臨床医学各論Ⅴ 臨床医学各論Ⅵ	臨床医学C
臨床医学各論Ⅶ	臨床医学D
臨床医学各論Ⅷ	臨床医学E
<b>【専門科目】</b>	
医療管理総論	医療管理論Ⅰ
医療管理各論Ⅰ 医療管理各論Ⅱ	医療管理論Ⅱ
医療情報学	医療情報学
医療統計学	医療統計学
診療情報管理論Ⅰ 診療情報管理論Ⅱ	医療・診療情報管理論
分類法総論Ⅰ 分類法総論Ⅱ	診療情報分類法総論
分類法演習Ⅰ 分類法演習Ⅱ 分類法演習Ⅲ	診療情報分類法演習
病院実習	医療・診療情報管理実習

表3 「医療情報技師」科目対応表

	本学配当科目
<b>【医学・医療編】</b>	
医学・医療総論	医学一般
医療制度, 医療・病院管理	医療管理論
社会医学	医療管理論
臨床医学	解剖生理学, 臨床医学
診療録およびその他の医療記録	医療・診療情報管理論
臨床看護	医療管理論
臨床検査	疫学概論
医薬品の体系	臨床医学
安全で適切な医療	医療・診療情報管理論
先進医療	高度医療応用システム論
入院医療記録	診療情報分類法総論
<b>【医学情報システム編】</b>	
医療情報の特殊と医療情報システムの現状	医療情報学, 医療情報システム論
病院情報システム	医療情報システム論
広域ネットワークが支える医療情報システム	統合化医療情報システム論
組織間の調整と契約	医療情報システム運用・設計論
医療情報の標準化	医療情報システム運用・設計論
医療記録の電子化	医療情報システム論
医療情報の倫理	医療情報学, 医療情報システム運用・設計論
医療支援のためのデータ分析・評価	医療統計学, 医療情報学
<b>【情報処理技術編】</b>	
コンピュータの基礎	情報処理概論
ネットワーク技術	情報ネットワーク論Ⅰ, Ⅱ
データベース技術	データベース論Ⅰ, Ⅱ
情報システムの開発と運用	システム開発
システム管理	システム運用
情報セキュリティ	システム運用

ての現場で必要とされる人材である。この資格の受験に関しては、履修科目の指定などの条件はなく、3冊のテキスト<sup>(6,7,8)</sup>があり、表3の左欄に示した内容を修得する必要がある。それらの内容に対応する大学の配当科目は、表3右欄に示すとおりで、これらを履修後に受験することを推奨している。

## 2.2 現状の問題点

### (1) 福祉分野への取り組み

表1に示すように、二つの専門領域（医療情報、福祉経営）で活動するための知識が得られる多くの科目がある。資格試験を受け、卒業研究などにも注力し、また、地域活動などの学外の活動にも参加し、さらに就職活動を行うことになると、4年間でこれら全ての科目を履修することは困難である。どのように学生の科目履修を指導するかが問題となっている。

医療情報の資格は「診療情報管理士」、福祉経営の資格は、厚生省の管轄である国家資格「社会福祉士」を想定しているが、本学は「社会福祉士」のための実習など施設に対応しておらず、短期間に「社会福祉士」資格認定校となることは難しく、卒業と同時に資格を取得することはできない。なお、福祉関係のスペシャリストには実務経験を通してなることが重要であり、社会福祉主事任用資格に必要な科目を履修しておいて、経験を積んで福祉系の資格「社会福祉士」を取得することはできる。

本学の系列校である京都短期大学の介護福祉専攻に入学すると、短大の2年間で「介護福祉士」として実社会へ出られるが、医療福祉マネジメント学科の福祉分野にも興味を持っている学生には、福祉経営を目指すことを指導している。しかし、社会福祉主事任用資格に必要な科目を履修する以外に、どれだけの科目を履修するべきかが明確ではなかった。

### (2) 「診療情報管理士」の受験対応

日本病院会は、これまでの通信教育による講座終了者に対する資格試験を2月中旬で行ってきており、そのカレンダーを継続する。養成認定大学で必修科目を終了する3回生も受験できることになった。合格すれば、4回生の就職活動において有利になる。3回生までに診療情報管理士の必修科目を履修して、4回生で資格試験の勉強に専念することもできる。なお、3回生で受験するとなると診療情報管理士の必修科目を早めに終了し、3回生後学期は受験勉強できる期間とする必要がある。ちなみに、3回生の夏期特別講習の科目「診療情報管理士対策講座」では、模擬試験などを行っている。学生は、医療情報と福祉経営のどちらかを選ぶとなると、就職や資格取得を考えて、医療情報の科目を多く選択しており、医療系の資格取得の支援を充実させることを求めている。

「診療情報管理士」の模擬試験では、科目別の成績分布に偏りはあまりなかったが、分類法に関する成績が想像以上に低かった。それは、現状のカリキュラムでは、臨床医学を2、3回生で履修し、2回生で分類法を学習しているために、3回生の夏となると忘れてしまう。2回生では、臨床医学の基礎知識が充分でない段階であり、分類対象の内容を理解できなかったことも要因であるが、開講時

期が早過ぎることもある。

### (3) 勉学の意識付けと他資格

1回生の科目「基礎ゼミⅠ」の中で資格取得について説明し、1回生を対象として科目「医療・診療情報管理論」も開講しているが、1回生は、語学、教養科目が履修の中心になるので、資格取得に対する意欲が希薄である。1回生の指導は、基礎学力をつけるための再教育を優先するべきとの意見もあるが、優秀な学生にも配慮する必要がある。地域の医療機関の事務職としては、医療事務の知識は必要であり、資格「医療事務管理士」を取得できるように、3回生の夏に「医療事務管理士」「診療報酬請求事務能力」を受験できるカリキュラムになっているが、早期に受験することにすれば、「診療情報管理士」「医療情報技師」資格取得の意識付けになる可能性もある。

## 3. カリキュラムの改良方法

第2章で述べたように、3年間を経過して、現カリキュラムの問題点が明らかになってきた。各科目の教育能力についてはFD(ファカルティデベロップメント)において検討しており、教育指導する側の能力・リソースの改革も含めて、多数の学生が得られる利益を最大化するカリキュラムに改定する。

### 3.1 医療情報と福祉経営に関して

専門領域として「医療情報」と「福祉経営」を挙げていることが、どちらかを選択するというのではなく、第2章で述べたように、3回生までは、医療情報の中でも診療情報に焦点を当てて、医療機関への就職と言う具体的な目標を明確にして、医療に関する基礎知識を習得することにする。そのために、第一に、資格「診療情報管理士」受験に適した科目履修の順番を検討することにした。第二に、その科目履修に合わせて、そのほかの資格の受験できる時期を明確にする。第三に、通信教育、短大、専門学校で資格「診療情報管理士」を取得するのは違い、4年生の大学教育を受けたことによる優位性を示すことであり、そのために卒業までに「福祉経営」の科目を計画的に履修できるようにする。

### 3.2 診療情報管理士について

診療情報管理士の履修科目を①医学系、②国際疾病分類系、③診療情報管理系と分類すると、それぞれは下記のような性質がある。

#### ①医学系

医療業務(例えば、看護師など)を経験している学生は、すでに医療用語を知っている。医療事務として勤務している場合も医療用語に慣れている。しかし、一般の学生は、医療用語や基礎的な医療知識がないので、臨床医学の教科内容を理解に時間が掛かる。早目に「臨床医学」を学び始めること

が、合格率に影響すると思われるが、押し付けられると難しいと感じて、資格取得を諦めることも起きる、それだけでなくドロップアウトすることもあり得る。そこで、意識付けを行うことが重要であり、勉強する姿勢を学ぶには、医療事務の資格を取得すること、低学年で医療現場において実習することなど考えられる。

## ②国際疾病分類系

これまでは、診療情報管理士の仕事内容を明確に理解するために、2回生ままでに完了している(表1)。これは、演習も含んでいるが、資格試験まで時間が空くことで、学習した内容を忘れることになる。医学系の知識を必要とする場合もあり、その配置が習得に影響するものと考えられる。

## ③診療情報管理系

情報システムや情報通信技術の基礎は、学部の情報系入門科目(情報処理概論、現代社会と情報技術、情報数学)で学習でき、これらとの連携が重要である。これに関しては、FDとして取り組んでいる。医療・診療情報管理の理解を容易にするには、医療機関の業務フローを把握することが役立つ。医療施設における業務と情報の関連性を実際に知る機会が大事であり、ゼミ科目などで補完する必要がある。診療情報管理系の専門科目の履修順序を示すなども、今回の改定で検討することになる。

3つの系の大まかな優先を考えて、それから各科目の順序を付け、各学年に配置する科目数を制限条件として、各科目を割り振ることになる。しかし、他の資格の取得も考慮して、「診療情報管理士」の必須科目以外についてもバランスを考える。

## 3.3 年次配当を考慮したカリキュラム改定

各科目の年次配当は、科目間の履修すべき順番と、時間割としたときに曜日・時限が重ならないことを配慮した科目数から決められる。下記の拘束条件の下で、幾つかの科目配置案を作成し、下記の評価関数により評価した。表4に、今回検討して最良となった科目配置表を示す。なお、各年次で履修可能な科目数の制限により、配当年次に全てを履修することを意味していない。

### ①拘束条件

解が満たさなくてはならない条件として、1) 全ての科目を配置、2) 資格「診療情報管理士」受験の必須科目を3回生ままでに配置、の2つがある。

### ②評価関数

複数の観点から評価する。観点間の重み付けにはAHP法<sup>9)</sup>が利用できる。観点は、1) 各科目間の履修順序の整合度、2) 3回生「診療情報管理士」受験に適した時期との適合度、3) 他資格による意識付けへの影響度、4) 1,2,3学年の前・後学期の科目数の平滑度、5) 「診療情報管理士」受験の必須科目を入れて卒業単位124の各学年・学期の平滑度、6) 「福祉経営」への発展性の6つである。評価観点1)のためには、3.1節で検討したように系別に順序を付ける。評価観点2)のためには、2.2



節の(2)を参考にする。試験対策講座に実施した基礎・専門・分類別の学力評価から、各科目の関連性と開講時期について検討し、試験前が効率的な科目、基礎的な知識となる科目を明確にする。評価観点3)のためには、2.2節の(3)を参考にする。

各学生が希望する進路(診療情報管理、医療情報システム技術、福祉経営、医療事務など)や履修能力により、履修する時期を選択できることが望ましく、その判断は、指導教員による履修指導で決まってくる。次章で述べるように、今後、学生自身が卒業までの科目履修をシミュレーションできるように、エクセルによるプログラムを開発する予定である。

### 3.4 学生の履修指導について

現状のカリキュラムでは、選択科目が多いので、卒業後に専門性をさらに伸ばすために、「福祉経営」の科目を4回生の卒論と同時に学習することができる。科目履修シミュレーションで絞り込む際に、福祉経営に関する科目の履修を教示することを考えている。例えば、拘束条件を満たしながら、共通基礎科目Ⅱと専門領域科目において科目を選択させ、評価関数の結果を求める。評価結果が大きくなれば、その方向で修正を繰り返す。評価観点5,6)は、各学生の履修科目により変わるので、いくつかの推奨する履修サンプルを作り、その評価を利用する。なお、評価関数は、AHP法を用いて、著者達で対比較を行い、ウエイトを決定する予定である。

科目履修シミュレーションでは、次のような最適案を見つけることになる。まず、診療情報管理士の対応科目が病院実習も含めて3年間に収まって、卒業のための条件(124単位以上、必須科目取得など)を満たし、次に、各学年に履修予定科目が適度に割り振られ、さらに、学部の教養科目や福祉関連の選択科目なども含めた4年間の科目配置としてバランスしている。

## 4. おわりに

新カリキュラムは、文部科学省へ申請して許可されると、2011年度の入学生から適用される。現カリキュラムも2010年度入学生が卒業するまで継続することになり、最低4年間は、2つが並存する。その移行期間は、各科目担当者が、上記の問題点を把握して、どの学生にも不利にならないように科目選択を指導する。現カリキュラムの学生には、夏期集中講義が受験対策の科目としてあるのみであり、セミナー科目(基礎ゼミ、専門ゼミ)を活用する。特に、専門ゼミⅠ,Ⅱを活用して臨床医学の復習をする。基礎ゼミⅡ,Ⅲでは、生活面の指導と関連付けて個人で勉強することを具体的に指導する。「診療情報管理士」資格試験は、日本病院会の指定するテキストの範囲から出題されるため、テキストを幾度も読んで理解することが重要である。同学年の学生間、また、先輩と後輩の間で助け合う仕組みも、この基礎ゼミⅠ～Ⅳの連携により構築する。

新カリキュラムは、形式的には整ったが、効果をあげるためには、教員が如何に全体カリキュラムを理解して、他科目の教員(非常勤講師も含む)と連携して指導するかに掛かっている。臨床医学は、

表4 科目配置表 ※:経営情報学部・医療福祉マネジメント学科の必須科目

科目区分		1年次	2年次	3年次	4年次	
ミナ		基礎ゼミⅠ [2]※	基礎ゼミⅡ [1]※ 専門ゼミⅠ [2]	基礎ゼミⅢ [1]※ 専門ゼミⅡ [4]	基礎ゼミⅣ [1]※ 専門ゼミⅢ [4]	
ベーシック	外国語科目	英語Ⅰ [2]※ 英語Ⅱ [2]※ 中国語Ⅰ [1] 中国語Ⅱ [1] 韓国語Ⅰ [1] 韓国語Ⅱ [1]	英語Ⅲ [1] 英語Ⅳ [1] 中国語Ⅲ [1] 中国語Ⅳ [1] 韓国語Ⅲ [1] 韓国語Ⅳ [1]	英語Ⅴ [1] 英語Ⅵ [1] TOEICⅠ [1] TOEICⅡ [1]		
	教養科目	人文科学	歴史と地理 [2] 倫理と哲学 [2] 異文化理解 [2] 文学概論 [2]			
		社会科学	経済学概論 [2] 法学 [2]※ 地方行政 [2] 福祉概論 [2]※			
		自然科学	一般数学 [2] 身体運動の科学 [2] 解剖生理学 [2]※ 心理学 [2]※			
		総合	現代日本語 [2] スポーツと体力づくり [2] プレゼンテーション論 [2] 北近畿学 [2]			
	ICT	コンピュータ入門 [2] コンピュータリテラシー [2]※ 情報処理概論 [2] 現代社会と情報技術 [2]				
	共通基礎科目Ⅰ	企業と経営 [2] 経営学入門 [2]※ 現代経済論 [2] 簿記論 [2]※ 会計学入門 [2] ビジネス実務 [2] ホスピタリティー論 [2]※ サービスマネジメント論 [2] データベース論Ⅰ [2] プログラム統計論 [2]	経営管理論 [2] マーケティング論 [2] 企業論 [2] 会計情報演習 [2] ビジネス・コンピューティングⅠ [1] ビジネス・コンピューティングⅡ [1] 情報数学 [2] 経営情報論 [2]※ 経営情報システム [2] 経営情報特殊講義Ⅰ [2] 経営情報特殊講義Ⅱ [2] マルチメディア論Ⅰ [2] マルチメディア論Ⅱ [2] データベース論Ⅱ [2] システム開発論 [2] システム運用 [2] ヒューマンインターフェイス [2] 情報ネットワーク論Ⅰ [2] 情報ネットワーク論Ⅱ [2] Webシステム [2]	ネットワーク・コラボレーション [2] 情報管理論 [2]		
	共通基礎科目Ⅱ	医学一般 [2] 医療管理論Ⅰ [2]	対人関係論 [2] 社会福祉原論 [2] 医療福祉政策論 [2] 医療事務総論 [2] 医療管理論Ⅱ [2] 画像処理 [2] 臨床医学A [2] 臨床医学B [2] 臨床医学C [2] 臨床医学D [2]	非営利組織会計論 [2] 医療経営学入門 [2] 医療福祉法制・行政論 [2] 社会保障論 [2] 地域福祉論 [2] 臨床医学E [2]		
	スペシャリティ	専門領域(福祉経営)	介護概論 [2]	経営分析論 [2] 精神保健論 [2] 精神保健福祉論 [2] 児童福祉論 [2]	コストマネジメント論 [2] リスクマネジメント [2] 医療福祉マーケティング [2] 老人福祉論 [2] 障害者福祉論 [2] ケアマネジメント論 [2] 臨床栄養学総論 [2] 診療報酬事務演習 [2]	
		専門領域(医療情報)		医療・診療情報管理論 [2] 医療情報学 [2] 医療統計学 [2] 診療情報分類法総論 [2] 医療情報システム論 [2]	医療統計演習 [2] 医療情報システム設計・運用論 [2] 統合化医療情報システム論 [2] 疫学概論 [2] 高度医療応用システム論 [2] 診療情報分類法演習 [2]	
学外実習科目		体験ワーク [2]	国内フィールドワーク [4] 国際フィールドワーク(中国) [4] 国際フィールドワーク(韓国) [4] 国際フィールドワーク(英語圏) [4]	ビジネス・インターンシップ [4]	医療・診療情報管理実習 [4]	
特別講座		診療情報管理士対策講座 [1] 医療情報技師対策講座 [1]				

医学の広い専門分野と対応しており、多くの教員が担当している。専門性も高いので、地元医師会に属している医師10名に非常勤講師として科目をご担当いただいている。地域の医療関係者の献身的なサポートがあって、地域の大学として医療に貢献できる卒業生を出すことができる。福知山市医師会をはじめとして、実習や講義へ協力して戴いている市立福知山市民病院、(株)日本医療情報センターには、心からの感謝を表します。

《参考文献》

- (1) (社)日本病院会, 「診療情報管理士とは」, ホームページ <http://www.jha-e.com/top/abouts/license>
- (2) 大井利夫, 『診療情報管理Ⅰ 基礎・医学編』, (社)日本病院会 (2009)
- (3) 大井利夫, 『診療情報管理Ⅱ 基礎・医学用語編』, (社)日本病院会 (2009)
- (4) 大井利夫, 『診療情報管理Ⅲ 専門・医療情報管理編』, (社)日本病院会 (2009)
- (5) 大井利夫, 『診療情報管理Ⅳ 専門・国際疾病分類法編』, (社)日本病院会 (2009)
- (6) 日本医療情報学会, 『医療情報 情報処理技術編』, 篠原出版新社 (2009)
- (7) 日本医療情報学会, 『医療情報 医学・医療編』, 篠原出版新社 (2009)
- (8) 日本医療情報学会, 『医療情報 医療情報システム編』, 篠原出版新社 (2009)
- (9) 多田実, 他, 『Excelで学ぶ経営科学』, オーム社 (2003)